

OPEN CAMPUS オープンキャンパス・進学相談会日程

- 第1回 6月16日(日) 進学相談会
第2回 7月21日(日) オープンキャンパス・進学相談会
第3回 8月25日(日) オープンキャンパス・進学相談会
第4回 10月20日(日) 進学相談会(三軒茶屋内企画)
第5回 2025年3月予定 進学相談会

※進学相談会は対面及びオンラインで開催します。
※日程の変更、予約制となる可能性があります。
※開催日時や内容の詳細は、学部ホームページをご確認ください。

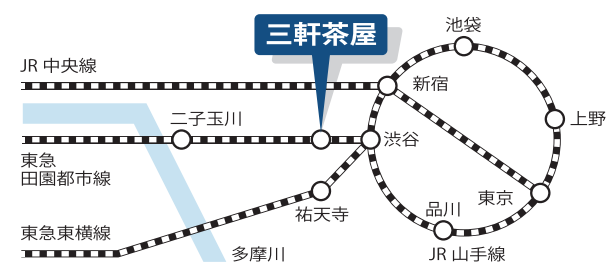
オープンキャンパス・進学相談会の情報はここから

お問い合わせ TEL: 03-6453-1700



ACCESS アクセス

- 東急田園都市線
「渋谷駅」から急行で1駅、「三軒茶屋駅」から徒歩約10分
■東急東横線
「祐天寺駅」から、東急バス 三軒茶屋駅行き(約10分)「日大前」下車 徒歩1分



CONTACT お問い合わせ

日本大学 三軒茶屋キャンパス

〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34-1

TEL: 03-6453-1600 E-mail: adm.rmss@nihon-u.ac.jp

https://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/

COLLEGE OF SPORTS SCIENCES

NIHON UNIVERSITY

2025



自主創造
日本大学

スポーツ科学部

理論と実践で、 スポーツの 未来を築く。

スポーツ科学部では、スポーツを理論と実践の両面から研究できる
総合科学と位置付け、体系化しています。

勝利という結果が重んじられる競技スポーツを主な研究対象とし、

コーチング学を中核に捉え、自然科学的な領域のみならず、

医科学や社会科学、形式科学を含め学際的かつ総合的に追究。

競技スポーツに関わる諸問題や課題を発見・解決していく能力を養います。

トップアスリートのほか、コーチ、スタッフ、研究者、行政キャリアなど、

競技力向上に貢献する人材を輩出することが

本学部の使命と考えています。

スポーツ科学部3つのポリシー

1.卒業の認定に関する方針 ディプロマ・ポリシー

日本大学スポーツ科学部（学士（体育学））は、スポーツ立国を目指す我が国の競技スポーツの発展に貢献するべく、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部における能力を修得したものに、「学士（体育学）」の学位を授与する。

2.教育課程の編成及び実施に関する方針 カリキュラム・ポリシー

日本大学スポーツ科学部（学士（体育学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。競技スポーツにおける専門的な知識を持つ技術的熟達者としての能力と、諸問題を認識するとともに課題を概念化し解決していく反省的実践家としての実践力として「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、総合教育、外国語教育、初年次教育、専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。また、学修成果の評価は、専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては、授業形態や授業手法に即した多面的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し、「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては、卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール、卒業研究・卒業論文、専門演習等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

3.入学者の受入れに関する方針 アドミッション・ポリシー

スポーツに関わる様々な実践の場において、これまでの教育課程で身に付けた学力を基に、競技スポーツに関わる諸問題や課題を多様な視点から発見し、それに対する多面的な情報収集・分析を通して、解決策を導き出す過程を繰り返すことができる能力を身に付ける意志を持った人材を求める。また、スポーツ科学の最新の知見を活かして競技力の向上を真摯に探求する、もしくはそれを支える意志のある人材を求める。



※3つのポリシーの詳細は日本大学スポーツ科学部
ホームページをご覧ください

総合型選抜がリニューアル！

競技力重視の選抜方法「アスリート型」に加えて、「自己アピール型」の導入を決定しました。 詳細につきましてはP.12をご覧ください。

〈学びの目的に応じて選択できる2コース制〉

ATHLETE アスリートコース

自らの競技力向上に
関する実践的
理論を学ぶ

P.4

SPORTS SUPPORT スポーツサポートコース

コーチとアスリートを
取り巻く環境を含めた
サポートの学びを深める

P.6

教育の目標

コーチングを中核に、医科学、自然科学、社会科学等、スポーツを取り巻く領域を学際的に研究。国際大会で活躍した元選手や指導者、競技スポーツの実務家や研究者、ジュニア育成指導者など、豊富な経験を持つ教員が学習をサポートします。学生が「競技スポーツの実践者」として、日本大学競技部をはじめとする各団体に所属することや学部内に設置される多様な種目のサークルで競技を実践することもできます。2年次以降は、自らの競技力向上に関する実践理論を深める「アスリートコース」と、指導者として、指導者と選手を取り巻く環境を含めたサポートの学びを深める「スポーツサポートコース」と、キャリアに合わせたコース選択が可能です。

4年間でスポーツの 核心を知る。

Message



スポーツ科学部 学部長
益子 俊志 教授

早稲田大学教育学部教育学科卒業。博士（医学）。ラグビー7人制日本代表。指導者としては、元ラグビー7人制日本代表コーチ、元早稲田大学ラグビー部監督、埼玉県ラグビー成年国体監督などを歴任。「コーチング学」を主とした授業を担当している。

スポーツを通して 「人間力」を高める

スポーツ科学部には、アスリートとして自身の競技力向上を目指す「アスリートコース」とアスリートを支え同じ目標へ向かう「スポーツサポートコース」があります。多種多様なスポーツの実践、知識修得を通して「反省的实践家」としての能力を養成します。反省的实践家に求められる能力は、課題発見力・解決力、論理的思考力、コミュニケーション力、チームワークといった社会へ出ても必要な能力です。スポーツ科学部では、混沌とした時代にスポーツを通して人間力を高め、どのような道へ進もうとも自信と誇りを持った人材を養成することを目的としています。

そのために教職員は「すべては学生のために」をモットーに全力で学生教育に力を注ぎます。保護者、指導者とも連携し、学生が積極的に自ら学修する環境、多くの実践的なプログラムを提供していきます。私たちは、学生が生き生きと楽しい賑やかなキャンパスを目指します。



反省的实践家の
思考

「反省的实践」とは、自ら実践しながら問題や課題を的確に発見・分析し、解決策を導き出して再び実践にフィードバックすること。

CURRICULUM

〔4年間の学び〕

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目（基礎理論に関する知識の修得）			
共通科目（基礎理論を土台にして、競技スポーツの諸問題に対応する実践的能力の養成）			
実習科目（反省的实践家を養成するために、客観的視点やコーチの立場などから課題発見を行い、多様な情報収集や分析で解決する能力を修得）			
コース 選択		ATHLETE アスリートコース	アスリートとしての専門的能力や資質を高めながら、自身の学びをコーチの視点からもアプローチさせ、将来のコーチとしての能力も育成。
		SPORTS SUPPORT スポーツサポートコース	アスリートの競技力向上、大会で本来の力を発揮させるコーチング方法の修得。競技スポーツにおける支援体制やマネジメント能力、資質を育む。
		専門演習・ゼミナール選択	競技スポーツ専門演習Ⅰ～Ⅳ ゼミナールⅠ・Ⅱ 卒業研究・卒業論文

ATHLETE

【アスリートコース】

躍動する身体、そこに宿る心。

競技者として、指導者として、高みを目指すために。アスリートコースは、自らの競技力向上に関する実践的理論を学ぶことを目的とし、客観的に自己分析する手法を身に付け、競技に必要な専門的能力・資質を高めていきます。また、アスリートとしての学びをコーチの視点から再構成することによって、将来のスポーツ指導者としてのコーチング能力を高めるための教育も行います。

学びのステップ

1年次

基礎固め

スポーツ科学に必要な基礎知識を修得
競技スポーツとは何か、コーチングとはどういうものかなど、4年間の学びの根幹となる考え方を身に付けます。また課題の発見・分析から問題解決への能力を備えた「反省的实践家」としての素養を身に付けます。

コース 選択

ATHLETE

SPORTS SUPPORT



キャリア支援

新入生キャリアガイダンス

スポーツ&メディア講座 1〜3年

2年次

実力アップ

競技スポーツに関する専門性を高める
自分自身を学びの対象とし、客観的に自己分析する手法を身に付け、アスリートに必要な専門能力・資質を高めます。

2年次開講専門科目

- 技術トレーニング論
- 体力トレーニング論
- 戦術トレーニング論
- 測定競技論
- 判定競技論
- 評定競技論

公務員入門講座 I〜II

2年生就職キックオフセミナー

3年次

専門演習・ゼミナール選択

未来づくり

社会でスポーツに携わるための実践力を養う
自身の学びが、社会にある「スポーツ」とどのように接続するのか、「スポーツ」に携わるとはどのようなことが想定されるのかなど、様々な観点から実践的に学びます。

3年次開講専門科目

- 技術トレーニング論演習
- 体力トレーニング論演習
- 戦術トレーニング論演習
- 測定競技論演習
- 判定競技論演習
- 評定競技論演習

3年生キャリアガイダンス
キャリアデザイン講座、
4年生内定者による就活報告会
など

4年次



■ 専門演習・ゼミナール、
卒業研究・卒業論文

フォローアップ企業セミナー
各種公務員面接指導

CLASS TOPIC



アスリートコース
澤野 大地 准教授
専門領域：コーチング学（陸上競技）

学生には、自らの競技力向上ためには常に目的意識を持って何事にも取り組むよう指導しています。私が担当する講義では、体力や技術のトレーニング方法に関する一般理論を学びながら、そこで修得した知識と各自が行なっている多種多様なスポーツの実践を通して、理論に裏付けられた実践知を高めることで、自らの競技力向上に関する実践的理論を身につけていきます。また、身につけた実践的理論はアスリートに必要な資質を高め、自ら考え、自ら学び、自ら行動できる能力につながっていきます。これらの能力は社会に出てからも求められる能力です。アスリートとしての競技力向上はもちろんのこと、人間力を高め、あらゆる世界で活躍できる人材になってもらえるような教育を心掛けています。

Impressions



アスリートコース4年
佐藤 卓郎 さん

知識を実践に活かしながら 競技力向上を目指す

私がアスリートコースを選択した理由は、より専門的な知識を学び、自身の競技に役立てたいと考えたからです。私は競技ゴルフをしています。アスリートコースでの学びを通じ、目的に応じたトレーニングの選択・配置、またどのように組み合わせしていくのかなど、自分で考えてトレーニングや練習を行うようになりました。そして様々な競技の選手と意見を交わすことで、今までになかった価値観を互いに共有し合い、自身の競技力向上の糧になっていると実感しています。

SPORTS SUPPORT

[スポーツサポートコース]

学びのステップ

1年次

基礎固め

スポーツ科学に必要な基礎知識を修得

競技スポーツとは何か、コーチングとはどういうものかなど、4年間の学びの根幹となる考え方を身に付けます。また課題の発見・分析から問題解決への能力を備えた「反省的実践家」としての素養を身に付けます。

コース
選択

ATHLETE

SPORTS SUPPORT



2年次

実力アップ

アスリートを支える専門知識を深める

アスリートの競技力向上をサポートする手法を学び、スポーツ活動を支援するための専門的能力を身に付けていきます。

2年次開講専門科目

- スポーツ制度・行政
- スポーツ経営管理
- スポーツ測定評価
- チームマネジメント論
- アスレチックリハビリテーション

3年次

専門演習・ゼミナール選択



未来づくり

社会でスポーツに携わるための実践力を養う

自身の学びが、社会にある「スポーツ」とどのように接続するのか、「スポーツ」に携わるとはどのようなことが想定されるのかなど、様々な観点から実践的に学びます。

3年次開講専門科目

- コーチングのための栄養学
- スポーツマッサージ演習
- スポーツ測定評価演習
- チームマネジメント論演習
- アスレチックリハビリテーション演習
- スポーツマネジメント演習 I・II

■ 専門演習・ゼミナール
卒業研究・卒業論文

キャリア支援

新入生キャリア
ガイダンス

公務員入門講座 I～II

2年生就職キックオフセミナー

3年生キャリアガイダンス
キャリアデザイン講座、
4年生内定者による就活報告会
など

フォローアップ企業セミナー
各種公務員面接指導

CLASS TOPIC



スポーツサポートコース
小松 泰喜 教授
専門領域：リハビリテーション医学

ケガや故障は、競技成績に直接影響を与え、メダルや表彰台はこれらを乗り越え、もしくは普段の日常に気配りをした結果であると言えます。そのため、本学での学修は、ケガや故障後の競技復帰のために、従前の競技力を取り戻すための適切な方法や知識、その解決能力を身に付けることを目指します。ケガ直後のアイシングも、今までの「当たり前」がそうでなくなっている現状があります。一方でケガや故障をしない身体づくりも大切であり、両方の側面から競技力向上を捉えることのできる人材を育成できるような、実学を目指した学修環境を提供できるように授業では創意・工夫をしています。

Impressions



スポーツサポートコース4年
清野 真央 さん

ケガや故障の後の
トレーニング方法や身体づくりを学ぶ

ケガや故障前の競技力を取り戻すための方法や知識を学んでいます。3次元動作解析装置(VICON)や床反力計を使い、身体の重心や動きを観察することで、身体の使い方を理解したり、多用途筋機能評価運動装置(BIODEX)を使い、筋機能特性を把握することで、ケガが起こりにくいトレーニング方法を考えます。「筋肉や骨の構造を理解し、ケガや故障後の現状に合ったリハビリテーション」「ケガや故障をしない身体づくり」この2つの観点から、競技力向上について考察します。

仕組みを知る。 そこから支援を見出す。

スポーツ活動を支援する人材を育成する。アスリートの競技力を向上させ、競技会で本来の力を十分に発揮するためのコーチング方法を学修。競技スポーツに関わるサポート体制を学ぶことで、スポーツ活動を支援するための専門的能力・資質も育みます。さらに、「スポーツ制度・行政」、「スポーツ経営管理」といった専門科目からスポーツマネジメントに関する理解を深めることができます。



FEATURE

より多角的にスポーツを捉える授業や現場に即した
コーチング実践など、両コース共通の新科目を設置

【特徴的な授業科目】

- 1** **オリンピック・パラリンピック論**
オリンピック・パラリンピックの歴史的背景から競技者としての
オリンピックの価値や運営まで幅広い知見について学修します。
- 2** **スポーツビジネス論**
スポーツを「ビジネス」としての視点から捉え、
必要な基礎的な知識、概念について学修します。
- 3** **アスレチックリハビリテーション演習**
アスレチックリハビリテーションについて
様々な実践を通して学びます。
- 4** **コーチング実践演習**
様々な競技種目を対象としたコーチングに関する
実践的学びを演習形式で展開します。



スポーツの基礎と応用を学び、競技力を
高めるための多彩な施設が充実しています

FACILITY

【主な施設】

- 1** **アリーナ／ランニングスペース／クライミングウォール**
1周約180mのランニングスペースと、クライミングウォールを
備えた体育館
- 2** **プール**
年間を通して利用可能な25m屋内温水プール
- 3** **トレーニングルーム**
フリーウエイト・マシントレーニング・有酸素・フリーの4つの
エリアに最新の設備が整っている
- 4** **実験室7(科学技術センター)**
実験・計測・トレーニングなど様々な機能を持つ実験室
- 5** **1401ラーニングcommons**
壁面ホワイトボードやファミレス席を備えた、学生主体の
グループ学習ができる教室
- 6** **図書館**
専門図書を豊富に取りそろえている

TEACHER



スポーツ科学部
西川 大輔 教授
専門領域：コーチング学(体操競技)

スポーツの魅力を伝える

私の専門種目である評定競技の評価や採点については、より正確に
より公平にとの観点から、人間の眼からAIによる採点への移行につ
いての議論が進んでいます。スポーツは時に大きな変化を伴いながら
進化し、勝負の世界ではそれにいち早く対応出来る能力が求められま
す。とはいえ、演技するのは人間であり、スポーツは本来人の心に訴え
る特別な力が最大の魅力です。スポーツ科学部では最新の知見や情
報を基に多角的に学習し、人間が持つ本来の能力の向上について議
論しながら、スポーツの世界を牽引する人材の育成を目指します。



スポーツ科学部
森長 正樹 教授
専門領域：コーチング学(陸上競技)

実践現場で得られる問題を科学的に解明していく

私は陸上競技の走幅跳を専門として2008年まで現役選手を続けてい
ました。その経験の中で感じた事は、スポーツ科学で取り扱われる問題
は実践現場で生まれるという事です。実践現場では様々な状況下にお
いて高いパフォーマンスを発揮することが重要です。そのため、実践現
場で生まれた問題を教室に持ち帰って学び、教室での学びを現場で実
践し、新たな問題を持ち帰る、このサイクルが非常に重要だと考えま
す。ですので、学生の皆さんが素朴に感じる問題を大切に、スポーツ科学
の専門的な知見をもって解決していくことを目指しています。



スポーツ科学部
原 怜来 准教授
専門領域：バイオメカニクス

アスリートもサポートする側も常に挑戦をすること

スポーツ選手のサポートをする際には、人生をかけて努力しているス
ポーツ選手と同等のストイックさを兼ね備え、選手と同等の目線で物事
に向き合う能力が必要です。本学部にはアスリートもおりますが、選手
のサポートをしたいという学生も多いです。アスリートもサポートする
側も、常に挑戦心を持ち続け、懐疑的な目で事象を捉える必要があり、
それらを大学で身につけられるよう、目の前で起きている事象やデー
タは何を示しているのか、また、それは今後スポーツ界にどのような変
化をもたらすのか、学生と共に考える授業を実践しています。

CAREER SUPPORT

キャリアサポート

キャリア支援体制



詳細はこちら



三軒茶屋キャンパスの正課科目は、大学と社会をつなぐ「社会人基礎力」等のコンピテンス・ベースの自覚的な学びとなっており、キャリア教育の一部を構成しています。3・4年次には、ゼミナールの担当教員を含む全専任教員が就職活動の状況を共有し、学部一丸でキャリア形成の支援を行っています。キャリア支援プログラムは危機管理学部との共同運営であり、公務員講座やDMM英会話もあります。一斉授業方式を補完して個々の学生のキャリア形成をきめ細かく支援するために、三軒茶屋キャンパスでは専門のキャリアカウンセラーを配置し、随時学生の相談に応じています。日本大学本部が開設する公務員相談コーナーのランチも設置され、公務員に特化した様々な相談をすることができます。

公務員講座

三軒茶屋キャンパスでは、1年次から学べる公務員対策講座を独自に開講しています。また、公務員相談コーナーが開設され、公務員試験に関するあらゆる質問を専任の相談員に直接相談できるようになっています。

スポーツ業界就活講座

スポーツメーカーやスポーツメディア業界は人気就職先の一つ。スポーツ関連企業に就職するには、早いスタート(準備)を切ることが重要です。1年次から受講可能な本講座は、スポーツ業界で働く専門家を講師に迎え、現場の生の声や就活の秘訣、またスポーツ業界で働くことを正しく理解し、希望に叶った就職が実現できるよう自ら行動する力や発言する積極性を学んでいきます。

DMM英会話

この講座では24時間365日いつでもオンラインによるマンツーマンレッスンが可能です。年2回(4月と10月)申込みすることができ、120か国、7,000名の講師から自分にぴったりの講師を見つけ、1日1回25分のレッスンをリーズナブルな受講料で受講することができます。

自分を
知る

- 自己分析
- できること
- やりたいこと
- 価値観

社会を
知る

- 業界・企業研究
- 理念
- ビジネスモデル
- 社風、人材要件

充実した
学生生活

相手に
伝える

- プレゼンテーション
- 筆記試験、適性検査
- 履歴書、ES
- 面接

充実のプログラムで、
学生一人ひとりをきめ細やかにバックアップします。

三軒茶屋キャンパスのキャリア支援プログラムは、充実した学生生活に立脚しながら「自分を知る」(自己分析)、「社会を知る」(業界・企業研究)、「相手に伝える」(プレゼンテーション)という三つの力を増進させるという考え方にに基づき、自己分析、業界・企業研究、エントリーシート作成、適性検査対策、模擬面接等の講座を体系的に配置しています。

留学・国際交流

スポーツ科学部では、日本大学主催の短期海外研修や派遣留学プログラムを積極的に推奨しています。



詳細はこちら

長期留学プログラム

- ウェスタンミシガン大学(アメリカ・8月～約1年間)
- ・正規課程コース・語学研修コース

ウェスタンミシガン大学は、ミシガン州カラマズーにある1903年創立の州立の総合大学です。カラマズーは、デトロイトやシカゴから車で2～3時間程度に位置し、治安も良好な街です。

日本大学主催 短期海外研修

- サマースクール(8月)
- ・ケンブリッジ大学ペンプルックカレッジサマースクールCEP(イギリス)
- スプリングスクール(2月～3月)※学部1年生対象
- ・ボンド大学カレッジ(オーストラリア)



大学院情報

令和5年度

日本大学大学院スポーツ科学研究科 新設

令和5年度より新たに設置された日本大学大学院スポーツ科学研究科は、スポーツ科学に関する研究を通して、競技スポーツが抱える諸問題を認識し、課題を概念化しそれを解決していく反省的实践家としての課題解決能力を高めることを重要視しています。国内外の知見から競技力向上に関する高度な専門性を身につけ、グローバルにスポーツ科学研究を実践できる能力を持った人材を養成することを目的としています。



私は中学の頃から日本のバドミントン界全体のレベルアップと競技人口の増加に寄与する職業に就きたいという希望がありました。そのためにはバドミントンという競技特性を様々な科学的視点から深く追求する必要があると思い、本学部へ入学しました。そしてゼミでの研究を進めるなかで、私の将来の目標を達成するにはより高度で専門的な知識と実践力が必要と考え、大学院への進学を希望しました。進学後はバドミントン競技を様々な視点から分析し、競技力向上に必要な要素をあらゆる観点から提案できる研究者となることを目指します。

スポーツ科学研究科修士課程1年 香月 春佑 さん

内定者紹介

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

学生広報アンバサダーとしてキャンパスや三軒茶屋の魅力を発信する活動をはじめ、授業や実習、ゼミを通して多くのことを学ぶ事ができました。また、人とのコミュニケーションのとり方や考え方、仲間の大切さを実感して大きく成長できた4年間でした。たくさんの人と関わる機会があったからこそ自分のやりたいことや進路が明確になりました。社会人としてのスタートは営業活動が主体です。学生生活で学んだコミュニケーション力や創造力を活かして多くの方に笑顔を届けられる存在になりたいです。



スポーツサポートコース
坂元 麗日 さん

ゼット株式会社

野球のWBCやサッカーのワールドカップなど、スポーツには世界を一眼で一つにするほどの大きな魅力があると私は考えます。しかし女子スポーツとしてみると、サッカーやバスケット、バレーと比較して女子野球は知名度が低く、残念ながらマイナー競技です。その中で私は、小学生の頃から今まで12年間、野球選手として積み重ねてきた経験とスポーツ科学部で修得した課題解決力や最新の科学的知見を活かして、卒業後はZETTという野球を支えるメーカーの立場から、少しでも女子野球界の発展・向上に貢献出来る“反省的实践家”になりたいと思っています。



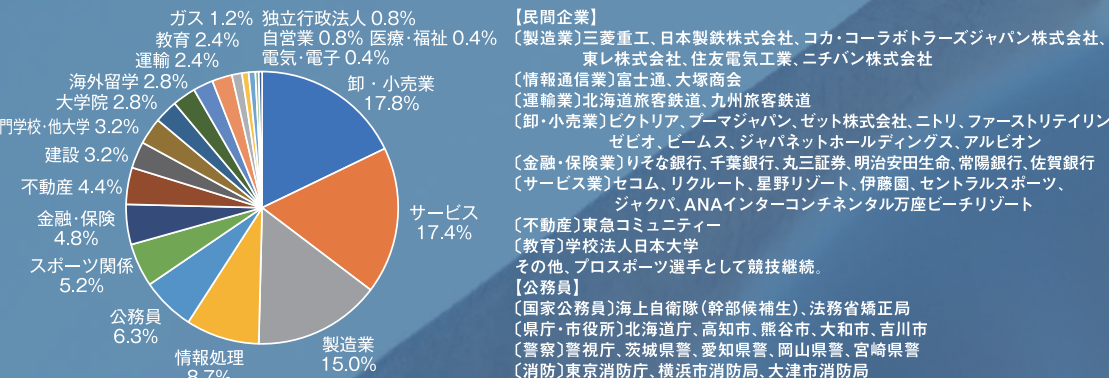
スポーツサポートコース
二宮 奈々花 さん

就職実績

スポーツ科学部学生の
約83%が一般企業へ
就職しています。



詳細はこちら



学生生活サポート

修学支援制度・奨学金

日本大学は、「高等教育の修学支援新制度」の対象校に認定されており、その対象となった受験生は入学後に授業料が減免されます。また、奨学金も家計困難者の支援を目的とした日本大学創立130周年記念奨学金(第2種)(30万円給付)など、学内外を含め充実しています。



詳細はこちら

保健室・学生支援室

保健室には看護師が常駐し、ケガの応急処置や健康相談、大学近隣の医療機関の案内や、日本大学病院への紹介状作成などを行っています。学生支援室では、教職員・保健室と連携し、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、修学や学生生活に不安を抱えている学生に対して、カウンセリング及び支援をしています。

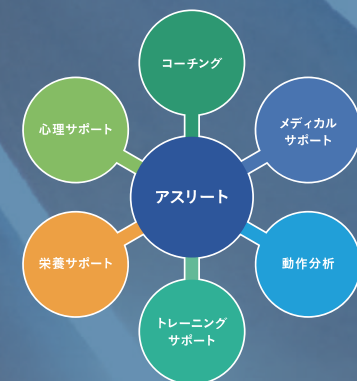
学生寮・提携学生寮

日本大学では、複数の大学直営寮(男子寮・女子寮)を完備し、経済面・安全面の両面から、一人暮らしをする学生の学修を支援しています。入寮時の初期費用がほとんどかからず、基本的な家具・家電などの生活必需品が揃い、インターネット接続も無料です。提携学生寮では、寮長・寮母が常駐し、朝夕の食事がついています。全室個室で家具類は備え付け、共用設備も充実しており、快適な学生生活が送れるように様々な配慮がされています。



学生寮の
詳細はこちら

スポーツサポートシステム



医学、生理学、バイオメカニクス、心理学、栄養学などをはじめとする様々な領域の研究成果に基づき、日本大学所属のアスリートを中心に競技力向上に役立つデータやアドバイスを提供することを目的とするシステムです。

競技力向上に必要なとされる充実した設備、最先端のトレーニング器具・機材、映像技術・情報技術を活用し、多彩な分野の研究者、医師などの専門家が連携し合うことで、アスリートにとって最適で有益な評価・診断を行います。

また、部門ごとにアスリート、コーチ、監督を対象とした講習会等を開催します。

ADMISSIONS [令和7年度入試情報]

▶詳細は「[日本大学 スポーツ科学部入試情報ホームページ](https://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/admissions/)」をご覧ください。
https://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/admissions/



総合型選抜 [アスリート型]

こんな人にオススメです

スポーツ活動を頑張った、
実績をアピールできる方

募集人員	55名
出願資格	①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。 ②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達している者。
出願要件	①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。 ②スポーツ活動で顕著な活躍が認められた者で、かつ本学部に入学を強く希望する者。
入試日程及び選考方法	詳細はスポーツ科学部ホームページで周知します。
出願期間	令和6年9月2日(月)～9月11日(水)
出願書類	①出願確認票(マイページから出力) ②志望理由書(学部指定用紙) ③スポーツ活動歴とその証明書(学部指定用紙)記入及びインターネット上での登録 ④出身高等学校等調査書等
選考方法	【第一次選考(書類審査)】 ※本人宛に結果を発送。 ※第二次選考は、第一次選考結果通知に同封された課題についてレポートを作成し、令和6年10月18日(金)までに提出しなければならない。(郵送必着) ①志望理由書(学部指定用紙) ②スポーツ活動歴(学部指定用紙) ③出身高等学校等調査書 【第二次選考】 ※第一次・第二次選考結果の合計により判定を行う。 ①課題レポートの書類審査 ②プレゼンテーションの評価および口頭試問 ③面接
試験日	第一次選考 令和6年9月30日(月) 第二次選考 令和6年10月26日(土)(10月27日(日))
合格発表日・発表方法	令和6年11月8日(金)(マイページ)

総合型選抜 [自己アピール型]

こんな人にオススメです

課外活動などを頑張り、
自己アピールができる方

募集人員	13名
出願資格	①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和7年3月卒業見込みの者。 ②高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び満たす見込みのある者で、入学時点で18歳に達している者。
出願要件	①本学部のアドミッション・ポリシー及び教育内容を理解し、本学部への入学を第一志望とし、合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。
入試日程及び選考方法	詳細はスポーツ科学部ホームページで周知します。
出願期間	令和6年9月2日(月)～9月11日(水)
出願書類	①出願確認票(マイページから出力) ②志望理由書(学部指定用紙) ③活動報告書(学部指定用紙) ④自己アピール書(学部指定用紙) ⑤出身高等学校等調査書等
選考方法	【第一次選考(書類審査)】 ※本人宛に結果を発送。 ※第二次選考は、第一次選考結果通知に同封された課題についてレポートを作成し、令和6年10月18日(金)までに提出しなければならない。(郵送必着) ①志望理由書(学部指定用紙) ②出身高等学校等調査書 ③活動報告書(学部指定用紙) ④自己アピール書(学部指定用紙) 【第二次選考】 ※第一次・第二次選考結果の合計により判定を行う。 ①課題レポートの書類審査 ②プレゼンテーションの評価および口頭試問 ③面接
試験日	第一次選考 令和6年9月30日(月) 第二次選考 令和6年10月26日(土)(10月27日(日))
合格発表日・発表方法	令和6年11月8日(金)(マイページ)

一般選抜

方式	学科・募集人員	試験日・試験場	受験教科科目数	教科・科目		配点
A個別方式	競技スポーツ学科 70名	令和7年 2月4日(火) 三軒茶屋 キャンパス	3教科3科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ,英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」	100
				地理歴史 公民 数学	「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

※A個別方式は、スポーツ科学部が独自に実施する試験です。

方式	学科・募集人員	試験日	受験教科科目数	教科・科目		配点
N全学統一方式(第1期)	競技スポーツ学科 10名	令和7年 2月1日(土)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ, 英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		
N全学統一方式(第2期)	競技スポーツ学科 5名	令和7年 3月4日(火)	2教科 2科目	外国語	「英語コミュニケーションⅠ,英語コミュニケーションⅡ, 英語コミュニケーションⅢ,論理・表現Ⅰ,論理・表現Ⅱ,論理・表現Ⅲ」	100
				国語 地理歴史 公民 数学①	「現代の国語,言語文化(漢文を除く)」 「地理総合,地理探究」 「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」 「公共,政治・経済」 「数学Ⅰ,数学Ⅱ,数学A(図形の性質,場合の数と確率),数学B(数列),数学C(ベクトル)」	100
				※上記の選択科目を指定科目数以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。 ※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。		

※N全学統一方式は、同一試験日・同一問題で日本大学の複数の学部(学科)を併願することができる試験です。

納入金

種別	項 目	初年度納入金額		
		入学手続時	後学期(9月)	計
学費	入学金 ^{※1} (初年度のみ)	260,000円	—	260,000円
	授業料	400,000円	400,000円	800,000円
	施設設備資金	150,000円	150,000円	300,000円
	実験実習料	50,000円	50,000円	100,000円
その他	日本大学三軒茶屋キャンパス後援会費	15,000円	15,000円	30,000円
	日本大学校友会準会員(在学生)年会費 ^{※2}	10,000円	—	10,000円
	計	885,000円	615,000円	1,500,000円

※1納入金は変更になる場合があります。必ず入試要項(募集要項)をご確認ください。 ※2卒業年度後学期に正会員会費初年度分を10,000円納入。

Q & A

スポーツ科学部よくある質問受験生の皆さんからよく寄せられる質問をまとめました。

Q1 「アスリートコース」と「スポーツサポートコース」の違いは何ですか。

一番の違いは学びの対象です。いずれのコースも身体能力や競技環境に向き合い、“言語化できるコーチング”を目指します。

「アスリートコース」

競技者である自分自身が学びの対象です。自身のトレーニングを細分化して検討したり、専門とする競技をもう少し大きな枠組みで考えたり、自身にまつわる競技種目全体を新たな視点でとらえます。

「スポーツサポートコース」

他の競技者を学びの対象とします。競技者が持つ身体的能力を引き出すために必要な様々な知識や、スポーツ経営管理やスポーツ制度・行政など競技スポーツを取り巻くサポート体制を学び、専門的視点から競技活動を支援するための学びが展開されます。

Q2 運動が得意ではありません。アスリートじゃなくても授業についていきますか。

実技内容やパフォーマンスを直接的に評価することはありません。

ご自身の競技力は成績評価の対象ではありません。講義やディスカッション、ロールプレイングを中心として、理論を競技活動へ活かす学びを提供します。



Q3 スポーツ科学部で取得できる資格について教えてください。

卒業と同時にしくは在学中に取得できる資格が5つあります。取得方法はそれぞれ条件が異なります。

- ①初級バラスポーツ指導員
- ②日本サッカー協会公認C級コーチ
- ③キャンピングインストラクター
- ④日本スポーツ協会(免除適応コース共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、水泳コーチ、スポーツリーダー)
- ⑤JATI 認定トレーニング指導者資格

教員免許は取得できません。ただし卒業後に科目等履修生として文理学部の教職課程(体育)を履修し、最短3年程度で教員免許を取得する方法があります。各種要件、条件等詳細については、お問い合わせください。

Q4 サークル活動等でスポーツをすることはできますか。

「スポーツ科学部体育会」というクラブ活動があります。

週2～3日程度の練習を通して仲間との絆やチームワークを築きながら、授業で学んだ理論を実践します。日本大学体育大会や地域の大会に出場するなど積極的に活動しています。種目は、陸上、バスケットボール、水泳、バレーボール、サッカー、バドミントン、スポーツクライミング(大会出場レベル)です。その他、併設されている危機管理学部の学生と混合の、室内競技を中心としたサークル活動があります。